

Minami Kyushu University Syllabus

[illegible]

授業計画 【第11回】	<3日目> 第11回:ESD・環境教育と学校教育（総合的な学習の時間を中心に） ・自然に学ぶ意義:ESD(持続可能な社会を形成するための教育)の視点に立った環境教育について理解する。 ・ESDと学校教育（学習指導要領）の親和性について理解する ・学校教育における環境教育の現状と課題(ESDカレンダーと問題解決学習)について把握する。
授業計画 【第12回】	<3日目> 第12回:「総合的学習」における環境教育プログラムの立案:教科等との関連性 ・各自のテーマと教科等との関連性について調べる ・対象学年の設定を行い、授業のイメージをもつ
授業計画 【第13回】	<3日目> 第13回:「総合的学習」のプランニング ・ESDカレンダー及び指導計画の作成:教科等の教科書及び年間計画を参考にしてESDカレンダーを作成する。 ・教科等の教科書及び年間計画を参考にして探究的な授業の指導計画を作成する。
授業計画 【第14回】	<3日目> 第14回:「総合的学習」のプランニング ・プレゼン資料作成(PowerpointやKeynoteを用いた資料作成) ・担当テーマの現状と課題、解決すべき課題、授業プラン（ESDカレンダー、年間計画、指導計画など）
授業計画 【第15回】	<3日目> 第15回:プレゼン「わたしの環境教育プログラム」 ・各自が作成したプログラムを発表する。 ・他の学生のプレゼンとの関連性を見つけ、さらに横断的なプレゼンにブラッシュアップする。
授業の到達目標	学校教育・幼児教育のなかでESDの視点に立った環境教育に取り組む意義を理解し、現状把握と問題点の認識を図る。その上で、受講者自身が野外活動を体験し、地域の環境に関する生態学および科学的知見を蓄積し、その知見を活用した環境教育を立案、グループ学習を通して繰り返し、表現するまでのプロセスを経ることで、初等教育（幼稚園を含む）における環境教育の実践的な指導法を習得することを目標とする。
学位授与の方針 (DP)との関連	1.知識・理解を応用し活用する能力-(1)／1.知識・理解を応用し活用する能力-(2)／2.汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／2.汎用的技能を応用し活用する能力-(2)／3.人間力、社会性、国際性の涵養-(1)／3.人間力、社会性、国際性の涵養-(2)／3.人間力、社会性、国際性の涵養-(3)／3.人間力、社会性、国際性の涵養-(4)／3.人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外学習【予習】	反転学習として、講義前に事前課題を課し（1時間程度）授業に活用する。不明な点は、担当教員に随時相談すること。
授業時間外学習【復習】	毎回の講義終了後に、講義内容を振り返り、内容に関連して自分が考えたことをまとめ、文章として表現するレポートを課す（1時間程度）。不明な点は、担当教員に随時相談すること。
課題に対する フィードバック	課題については、随時、解説を行う。
評価方法・基準	演習への取り組みを、レポート(60%)、プレゼンテーション(10%)、意見発表(10%)、プログラムの作成などグループ活動への主体的・協働的・創造的参画(20%)の観点から、総合的に評価する(100%)。評価基準については、講義内容の理解を最低限のレベルとし、理解に基づく活用、さらに応用といった、知識を基にして様々なことと関連づけて思考・判断したことが表現できているかどうかを評価する。
テキスト	テキストは使用せず、適宜資料を配布する。
参考書	・「学校における持続可能な発展のための教育（ESD）に関する研究最終報告所」（国立教育政策研究所・教育課程研究センター） ・「環境教育指導資料[小学校編]」国立教育政策研究所・教育課程研究センター（東洋館出版社） ・「持続可能な地域と学校のための学習社会文化論」〈「ESDでひらく未来」シリーズ〉（学文社） ・「小学校学習指導要領解説 理科編」（文部科学省）
備考	・夏季集中講義で実施する。 ・天候等により講義内容が入れ替わること、変更になることがある。 ・フィールドワークとして、干潟調査（重富干潟）または河川環境調査（沖水川）をおこなう。 ○夏季集中講義として8月後半～9月初めの実施予定であるが、各実習とは日程が重ならないように調整する。